

臨時休業や登校可能日、分散登校を経て、今週は約3か月半ぶりに全校生が登校した一週間となりました。1～3年生がすべて揃って登校した週と考えれば、約4か月半ぶりとなります。学校生活の日常が戻りつつあることを喜び感謝しながらも、感染には十分に留意してください。油断は禁物です。そして、進路実現に向けて、更に気を引き締めて生活を送ってほしいと思います。

日本学生支援機構奨学金(予約採用)について④

- 【申込書類の提出】再提出の生徒は6/22(月)に必ず提出してください
- 【申込内容の入力】6/22(月)15:45～情報処理室にて行います
当日が当番の生徒は6/24(水)15:30～情報処理室にて行います
- 【マイナンバーの郵送】『申込内容の入力』後、1週間以内に所定の封筒にて郵送してください



進路実現に向けて① ～合格の鍵～

今回は「受験の壁」についてお話ししました。今回はそれを乗り越えた後の「合格の鍵」についてお伝えしたいと思います。就職試験や推薦入試では、ほぼ100%面接試験が行われます。そして、面接でよく質問される双璧が「志望動機」と「自己PR」です。つまり、この2つの質問に完璧に答えることができれば、一気に内定(合格)に近づきます。



「志望動機」のポイントは必ず「その企業(大学・短大・専門学校)でないといけない理由をしっかりと伝えること」です。しかし、これはなかなか難しいです。まずは進路先を徹底研究する必要があります。そして、あなた自身が就職後(進学後)にやりたいことを整理しておく必要があります。その上で、進路先が求める人物像とあなたの将来像をマッチングさせる必要があります。

「自己PR」のポイントは必ず「努力して身につけたことを上手に伝えられるかどうか」です。面接では「努力して身につけたこと」が大きく評価される傾向があります。例えば「中学時代は苦手だったけど、高校入学後に努力して身につけたこと」などが挙げられます。それは勉強・検定などの学習面、部活動・委員会活動・プロジェクト活動などの特別活動、積極性・協調性・コミュニケーション能力など内面に関することなど、さまざまです。そして、それを「上手に伝えられるかどうか」のポイントは具体的なエピソードを交えることです。それが「根拠＝説得力」になります。

最後に「志望動機」と「自己PR」を成功に導くために、今やらなければならないことを2つ挙げておきます。1つ目は、自分を知ることです。進路の基礎は「自己分析」にあります。すでに臨時休業中の宿題で取り組みましたが、まだ困っている生徒は、箇条書きで構わないので「自分は何に喜怒哀楽を感じるのか」というところからスタートしてみてください。2つ目は「自己PR」用に武器を増やすことです。勉強・検定・部活動・当番活動・課題研究・プロジェクト活動・寮生活などで今以上に頑張っていることを今以上に頑張ることです。そして、頑張らなければならないとわかっている、つい後ろ向きになってしまっていることに、逃げずに真正面から取り組むことです。それが、いざ大切な試験の時に、合格への扉をこじ開ける武器になっているはずですよ。

～6月の進路ガイダンスについて～

- ①希望進路別ガイダンス【6/2(火)4限、6/9(火)4限:分散登校中に実施】
[進学希望者] 入試のスケジュール、入試対策、進学にかかる費用 など
[就職希望者] 求人票の見るべきポイント、応募前企業見学、基礎学力の重要性 など
※詳細は学校HPブログをご覧ください
- ②面接対策講座【6/23(火)4限:全員で実施】
順次、模擬面接を実施します。第一弾として、入退室のポイントを実践しながら学びます。

※重要 就職試験のスケジュールが1か月後ろ倒しされることになりました!

☆選考開始 9月16日 → 10月16日

以下のスケジュールは、状況を見ながら校内で調整し、決定次第お知らせします!
求人票公開期間、応募前企業見学実施期間、三者面談日程、校内選考日程 など

私の高校生活⑤ ～苦勞が後にを味かせて…～



小学校から大学までの学校生活のなかで、最も楽しくなかったのが高校時代でした。クラスの雰囲気あまり好きではなく、成績も良くない。担任の先生はあまり信頼できませんでした。ただ『高校生活を楽しもうとするよりも、苦勞してもやるべきことを全うするべき』と親戚から強く言われていたこともあり、耐え忍んだ三年間でした。唯一、良かったことは本音で話し合える親友に出会えたこと。ひよんなことから仲良くなり、今でもお互いの人生に好影響を与え合う関係です。また、挨拶と時間にやたら厳しい高校だったので、社会人としての基礎が身についたことも良かったと思います。5分前行動…の5分前行動…で、10分前に行動をするような高校でした。部活動は文芸部に所属し、好きなことに懸命に取り組んでいました。(あまり良い思い出はなかったはずなのですが)よくよく考えてみると、そんなに悪くない高校生活だったかもしれません。

高校時代の反動からか、大学では学びたい文学を存分に学び、尊敬できる先生に出会い、好きなことにも没頭し、とても充実した4年間でした。私の父親が高校の先生で苦勞を直に見てきたので、当時の私は先生になりたいと思ったことは全くなかったのですが、親の言い付けで教員免許は取得しました。それが後々、私の人生を大きく切り拓くことになるなんて想像もしませんでした。

大学を卒業してからは夢に向かって一直線。しかし、夢は実現しないまま月日が流れました。さまざまな挫折や葛藤を繰り返しながら、辿り着いたのが高校教師でした。改めて自分の高校時代を振り返ってみて、ある言葉が頭をよぎりました。「好きなことを大事にしていれば、巡り巡って、それに関係する職業に就く。」好きではなかった担任の先生の言葉を思い出すなんて、不思議なものです。かなり遠回りをしましたが、今こうして好きな教科を教えながら教壇に立っている。目の前の苦難から逃げなかったことが、今の自分の心の支えになっています。



【今回取材に応じてくれた先生から54回生のみなさんへメッセージ】
振り返った時、もう二度と高校生には戻りたくないと思えるほど、精一杯何かに取り組み、悩み、苦勞してから卒業してください。そして、好きなことと得意なことを大切に。きっとあなたの人生を切り拓く大きな力になるはずです。

保護者のみなさまへ

今週になって、ようやく全員登校となりました。この3～4か月間、ご家庭におかれましては、進路や学習面などで大きな不安があったと思います。この学年通信などを通して随時最新の情報をお伝えしてまいりましたが、状況は日々刻々と変化しています。就職に関しては、近年「売り手市場」が続いていましたが、今年度に関しては求人数が減少する可能性があります。進学に関しては、新入試制度の開始年度ということで、各大学の入試要項が発表されるまでは、不明確な部分があります。一方、専門学校のエントリーが6月から開始されるなど、例年通りの動きも見られます。生徒たちにも情報に敏感になるように伝えておりますが、私たちもタイミングを逃さずに情報をお伝えしていきたいと考えております。また、新型コロナウイルスが完全終息したわけではなく、予断は許しません。特に本校生の約半数は寮生であり、他校以上に対策が必要になります。なかには危機意識の低い生徒もおり、その都度、感染のリスクと対策について話をしています。進路実現に向けて、学校教育を継続して行っていけるように、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。